

阪神甲子園球場





伝統的なカクテル光線をLEDで再現し 照明・映像・音響の連動で球場を演出

1924年に竣工した阪神甲子園球場にナイター照明が設置されたのは1956年。当時のナイター照明はオレンジがかった光色の白熱電球が主流だったが、阪神甲子園球場では、照度を補うために明るく青白い光色の水銀灯を加えることで、「カクテル光線」と呼ばれる、より明るくプレーしやすい環境をつくり出した。その後、1974年には演色性を重視したメタルハライドランプと高圧ナトリウムランプへと光源が変更され、今回の改修に至る。

照明設備の改修にあたっては、ノスタルジックな空間を生み出すカクテル光線を継承するとともに、熱狂的なファンによる応援スタイルを後押しする新たなファンサービスの向上がテーマとされた。パナソニックは、LEDによってカクテル光線を再現するために、2050K（橙色）と5700K（白色）のLED照明を特注仕様で開発。2色が混じり合った際に阪神甲子園球場独特の温かみのある空間に最大限近づけるように調整し、4K・8K放送に対応する高い演色性も実現した。また、DMX[®]制御の導入により756台のスタジアム照明を個別に点滅・調光し、鉄塔照明では図柄や文字を照明でドット絵のように表示。演出面では、阪神タイガースが勝利した後に、鉄塔照明に「VICTORY」の文字と「駆ける虎」が出現し、メインビジョンとライナービジョンにも文字と映像を連動して演出するなど、LED照明と音響、ビジョン映像が連携したエンターテインメントが繰り広げられる。

また、今回のLED化ではCO₂排出量を約6割削減するとともに、全ての照明器具の角度を精緻に設定することで、まぶしさを感じさせない光環境を実現し、周辺への光漏れも最小に抑えている。このように、2024年に誕生100周年を迎える阪神甲子園球場は、次の100年も愛され続けられるよう、環境に配慮した社会貢献に取り組んでいる。

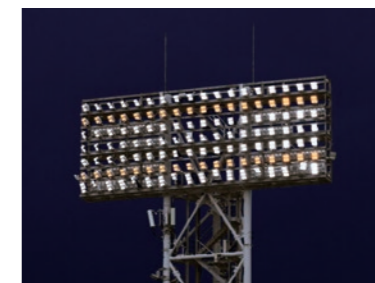
※照明器具を調光・制御するための通信規格

- ◀ (上) プロ野球モード(全点灯時)のナイター照明
照度: 内野 2,500 lx、外野 1,500 lx
(中) 阪神タイガースが勝利した後の演出
鉄塔照明にはドットで、メインビジョンには映像の虎が駆ける
(下) 外野最上段から見たホームラン時の演出



阪神甲子園球場

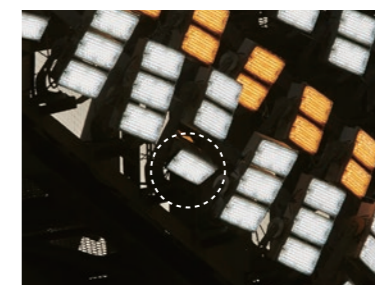
■球場照明LED化工事
所在地/兵庫県西宮市甲子園町
事業主/阪神電気鉄道株式会社
設計監理/阪急阪神不動産株式会社
施工/中央電設株式会社
竣工/2022年2月



従来のカクテル光線をLEDで再現した鉄塔照明



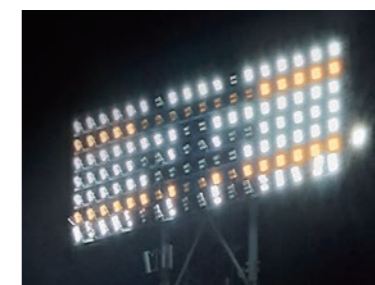
グレアを低減するよう綿密に角度調節された銀傘上に設置された投光器



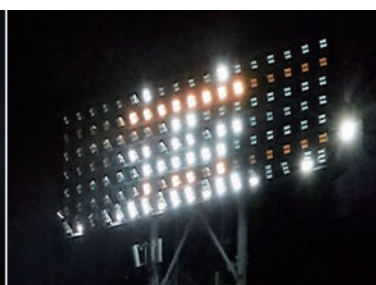
鉄塔の最下段で客席を照らす角度に設定された投光器



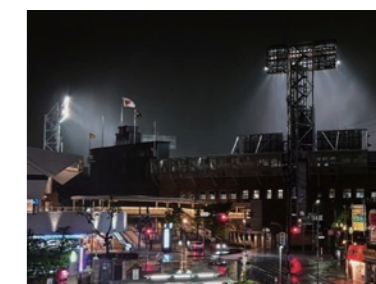
銀傘下のキャットウォークから客席を照らす特注照明



阪神タイガースのマークが点滅するハイライト演出



照明演出やメインビジョンと連動するライナービジョン



精緻な配光制御で周辺への光漏れを抑制

主な納入設備

- LED投光器 (5700K) 548台
- LED投光器 (2050K) 208台

お客様の声や
照明演出の動画
をご覧ください

